



能面の制作者にアドバイスする館
(手前) (豊中市の豊中不動尊で)

能面表情豊か 豊中で新作展

示される。観覧無料。

全国から寄せられた新作の能面を集めた「島熊山能面祭」が21日、豊中市緑丘の豊中不動尊で開かれ、大勢の愛好家が訪れた。

新作面の発掘や能面制作の技術向上が目的で5回目。「能楽師が舞いたくなるような能面・狂言面」をテーマに全国131人から計206面の応募があり、梅若玄祥さんや大槻文蔵さんら能楽師7人が審査した。

会場では応募者が能楽師に直接、どんな能面が舞台に映え、使いやすいかを聞くことができ、「彩色に工夫を」「まぶたで表情を出して」などのアドバイスを受けていた。

入賞作品約60点は26～28日にエル・おおさか(大阪市中心区)、9月3～5日に大阪(伊丹)空港でも展

平成23年8月22日(月)
読売新聞朝刊

平成23年(2011年)8月22日 月曜日

後世に残る新作の能・狂言面発掘

平成二十三年八月二十二日(月)
産経新聞朝刊

後世に残るような優れた能面や狂言面と、それを制作する面打ち作家を発掘する「第5回島熊山能面祭」が21日、豊中市緑丘の豊中不動尊で開かれた。訪れた人たちは、全国から寄せられた新作の面にじっくり見入っていた。

能面祭は伝統芸能の継承・発展を目指して行われ、応募作206点を観世流能楽師の梅若玄祥さんや大槻文蔵さん、山本博通さんらが「舞台で舞いたくなる面」を基準に審査。この結果、住村太さん(福岡県)の「童子」と原田ちよ子さん(愛知県)の「増女」の2面が大賞に選ばれた。

会場には、大賞などの入賞作59点を含む全応募作品

豊中不動尊、応募作206点を審査

を展示。伝統的な題材だけでなく、NHK大河ドラマの主人公「江」をモチーフにした創作面などもあり、訪れた人たちは能楽師の講評を聞きながらさまざまな表情をした作品を興味深そうに鑑賞。入賞作品を使った舞も披露され、伝統芸能の奥深さを堪能した。

山本さんは「年々レベルアップし、舞台で使ってみたいと思う面が増えてきた」と喜んでいる。

入賞作品は、大阪市中心区の「エル・おおさか」ギャラリー(26～28日)と、大阪国際空港エアポートギャラリー(9月3～5日)でそれぞれ披露される。いずれも入場無料。



全国から寄せられた新作の面がずらりと並び島熊山能面祭―豊中市緑丘

新作を紹介「能面展」

大阪国際空港「ギャラリー」



大阪国際空港ターミナルビル3階「エアポートギャラリー」で、新作の能面を紹介する「能面展」が開かれている。写真。5日まで。入場無料。

豊中市の豊中不動尊で8月に開催された「第5回島熊山能面祭」で大賞を受賞した「童子」（梅若玄祥賞）と「増女」（大槻文蔵賞）の2点など入賞作59点を展示している。訪れた人たちは、人間のさまざまな心の奥が表現された芸術作品を興味深そうに鑑賞していた。

平成 23 年 9 月 5 日 (月)

産経新聞朝刊